

時間:火曜日 14 時~15 時半

場所:聖グレゴリオの家
ハッチハウス

受講料:
5 回(各学期毎)
12,000 円
(資料代含む)

10 回(全学期)
24,000 円
(資料代含む)

QRコード、メールにてお申込みください。
mail:info@st-gregorio.or.jp
(聖グレゴリオの家事務室まで)



Google フォーム

対面で受講できない方は
講義録画と資料の配信
(期間限定)をうけること
ができます。

賛歌と聖歌

-中世単旋律歌謡の靈性-

講師

杉本ゆり

2026 春学期日程

- | | | |
|------|------|-------------------------------------|
| 6 回 | 4/14 | 十字架賞賛の聖歌
Vexilla regis 他 |
| 7 回 | 4/28 | 聖母マリアの嘆き
13 世紀の靈性から生まれた
マリア賛歌 |
| 8 回 | 5/12 | 被昇天聖歌の諸相と
奉納唱としての Ave Maria |
| 9 回 | 5/26 | 聖人賛歌について |
| 10 回 | 6/9 | アシジの聖フランシスコと
平和の賛歌 |

2026 秋学期日程

「聖フランシスコと音楽」

- | | |
|------|-------|
| 11 回 | 9/29 |
| 12 回 | 10/13 |
| 13 回 | 10/27 |
| 14 回 | 11/10 |
| 15 回 | 11/24 |

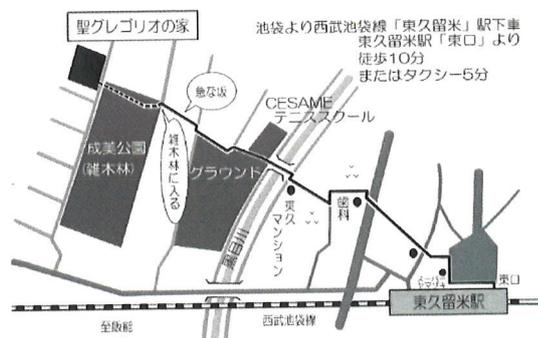
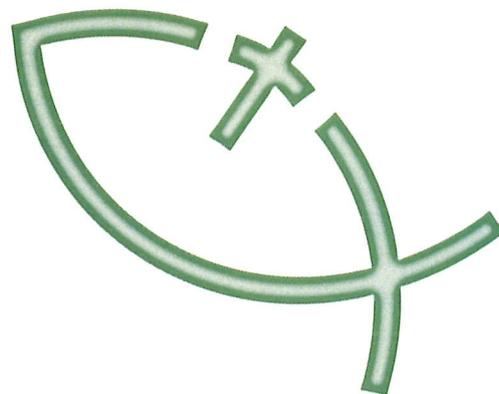
講義要項

中世の教会音楽といえばカトリック教会の典礼、特にミサを思い浮かべますが、ミサ以外の場で歌われる無数の民衆聖歌が信仰世界には生きていました。同時にミサ曲の中にも非エリートの起源をもつグレゴリオ聖歌が存在します。それらに多角的に焦点を当て、中世の信仰を座標軸として放射線状に中世音楽史を見ていきたいと思ひます。また、歌うという実践をとおして体感していきましょう。特に声楽の基礎や素養は必要ありませんのでどなたでもご参加ください。

杉本ゆり

武蔵野音楽大学音楽学学科卒業。中世ルネサンス音楽史専攻。
聖グレゴリオの家・宗教音楽研究所勤務。

2005年にLaudesi Tokyoを結成して、中世スペイン、イタリア音楽中心に演奏活動を開始。音楽監督と指揮を務める。「ラウダの世界」(2008年)、「Stella splendens」(2009年)、「13世紀音楽の諸相」(2010年)が好評を得る。2011年、スペイン大使館の後援を得て「O lux et decus Hispanie」を開催し、12世紀のカリクティヌス写本を日本初演した。2014年、上智大学神学部、同大学キリスト教文化研究所、ノールダム・ド・ヴィ共催で「音楽による黙想—16世紀カルメル会の霊性と音楽」講演の講演と指揮・監修を務める。また、ミュンヘン、フリブールのフランシスコ会修道院に滞在し、13世紀のフランシスカン写本についての論文を聖グレゴリオの家・研究論集、および東京フランシスカン研究所発行の『フランシスカン研究、3』に発表。2016年度より立教大学「キリスト教霊性と文化」の兼任講師を務める。同大学教会音楽研究所主催のレクチャーコンサートに出演。上智大学中世思想研究所主催講演会で「グレゴリオ聖歌、その霊性と本質」に登壇。主な論文に「コルトナ・ラウダ概論」、「アシジの聖フランシスコ祝日聖務日課について」(聖グレゴリオの家研究論集)「ユリアヌスの詩と音楽」(東京フランシスコ研究所刊行)、「スペインのガリシアを知るための50章」に『中世ガリシア音楽の遺産』(明石書房刊行)を寄稿。「初期フランシスカンにおける音楽」(長崎純心大学キリスト教文化研究所紀要 第二号)共著に「吟遊詩人マルティン・コダックスー7つのカンティーガス」「カンティーガス・デ・サンタ・マリアへの誘い」(いずれも論創社)がある。



聖グレゴリオの家宗教音楽研究所
〒203-0004 東京都東久留米市氷川台 2-7-12
TEL:042-474-8915 FAX:042-474-8832
<https://st-gregorio.or.jp>



聖グレゴリオの家 HP サイト